

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第627号 平成25年10月17日

マオリ族の入れ墨

ニュージーランドの先住民族マリオ族の女性が顔の入れ墨を理由に石狩管内の温泉浴場施設側が入館を断った件が、様々な議論を呼んでいます（9月14日付北海道新聞他）。

この問題について菅官房長官は9月13日、外国の様々な文化に敬意を払い、理解を深めることが大事だと述べていますが、入館拒否の是非については「民間施設の判断」と明言を避けています。

温泉施設側の対応について、偏狭だと批判の声がある一方、温泉施設側の判断の難しさに理解を示す意見も有るのですが、皆さんはどの様にお考えになるでしょうか。

今回の様な問題は、1999年にも、小樽市内の温泉施設がマナーの悪い外国人の入浴を拒否していた事が大きな問題として取り上げられたことが有る様に、古くて新しい問題です。

私自身は、入れ墨を入れている人に良い印象は持っていないので、入れ墨を入れている人が自由に出入りする施設だと分かれば、そのような施設は敬遠するでしょう。それは「刺青を入れている人に対する偏見だ」といわれても、簡単には変えられない根深いものがあります。その背景には、入れ墨はやくざといった反社会的な行為と結びついたイメージが強いからだと思います。

最近では、ファッションとしてタトゥーを入れる人が増えていることもあり、入れ墨に対する印象は変わりつつあるかも知れませんが、タトゥーを含め入れ墨を入れている人を見て不快に感じる人が少なくない事もまた、現実だと思います。

平成24年に、大阪市が入れ墨をしている職員の調査をして大きな話題になった事は、皆さんもご記憶の事だと思います。これも、入れ墨に対する市民の感覚を反映したものといえるでしょう。当時の橋下市長は「もしガガさんやデップさんが市職員になるといったら、断りますよ。」といったとかいわないとか・・・。

さて、今回問題となった件をもう少し整理しておきましょう。

先住民族マオリ族の言語指導者エラナ・ブレワートンさんは、先月（9月）日高管内平取町で開催されたアイヌ語復興を目指す講習会出席の為に来道され、講習会終了後温泉施設を訪ねた際エラナさんが「モコ」という入れ墨していた為、入館を断られたというものです。

エレナさんがしている「モコ」という入れ墨は、唇と顎に家系や社会的地位を示すもので、女性の側では「反社会的な入れ墨とは異なる伝統文化であり、差別ではないか」と抗議したそうですが、施設側は「入れ墨が見えれば一律で断っている」と説明したといえます。

確かに、エレナさんの「モコ」をやくざの入れ墨やファッションのタトゥーと同じに扱うというのは、いささか配慮に欠けているように感じます。

一方、施設側の苦慮するところも分からないではありません。例えば、タトゥーは良いけれどもこちらの入れ墨はダメという様に差を付ける事は、別のトラブルの原因になりかねません。この為、一律のルールで入れ墨を入れている人の入館を禁止するというのは、施設側の苦肉の策ともいえます。

また、女性の側、特にエレナさんを施設に案内された方は、タトゥーを含め一律に「入れ墨入館禁止」としている温泉施設がある事は承知の筈ですから、事前に施設の意向を確認するという配慮も必要だったのではないかと思います。そうすれば、エレナさんが入浴できる施設も見つかったかも知れません。そうせずに、一方的に押しかけ、入館させないのは差別だということも、いささか傲慢の様に感じます。

ただ、「一律禁止」というのは、一つの判断を示している様で、実は何も判断していないのと同じです。むしろトラブルを恐れて判断する事を忌避している、といっても良いと思います。こうした姿勢では、問題の解決は困難です。

北海道では観光に大いに力を入れており、外国からも毎年沢山の観光客が訪れています。こうした中、自分達の価値観だけでモノを見るのではなく、もっと異文化への理解を深めて行く努力が求められている事は確かです。今回の一件は、そうした事を考えていく上で、大事なきっかけを与えてくれたというべきです。各施設においては、この機会に改めて、どの様なルールが望ましいのか検討を深めていただきたいと思います。

それぞれの国にはそれぞれの習慣や文化があるのですから、少なくとも、そうした自分達とは違う習慣や文化を知る努力は必要だし、そうする事は、自分達の世界を広げる力になる筈です。

なお、この機会に付け加えておきたい事は、自分達の価値観や文化を理解すべきだ、受け入れるべきだと主張する人は、同時に、そう主張する相手方の価値観や文化をも理解すべき立場に立っているという事です。

自分達は常に是であり、あなた方が我々を理解し、受け入れるべきだと一方的に主張するだけでは、問題の解決は難しい事を知るべきです。価値観や文化の理解は、相互の努力なしには深まらないのだという事を、私達は忘れてはならないと思います。

最後に、最近には本当に軽い気持ちでタトゥーを入れる若者が増えています。

そんな若者達に、先人の言葉を贈りたいと思います。

身体髪膚、之を父母に受く。

敢えて毀傷せざるは、孝の始めなり。（「孝経」から）

この「孝経」というのは、孔子の言動を記したといわれているもので、その意味は「人の身体は全て父母から与えられたものであるから、傷つけないようにする事が孝行の始めである。」というものです。

もっとも、「孝行」等には興味はないよといわれてしまっは、如何ともし難いのですが……。 (塾頭：吉田 洋一)